

Title	SFCにおけるPublic Speaking教育：教授法と学生の授業評価
Sub Title	Public Speaking education at SFC : teaching methodologies and students' class evaluations
Author	成毛, 信男(Naruke, Nobuo)
Publisher	慶應義塾大学外国語教育研究センター
Publication year	2009
Jtitle	慶應義塾外国語教育研究 (Journal of foreign language education). Vol.6, (2009.) ,p.19- 36
JaLC DOI	
Abstract	<p>This article reports a case of a successful public speaking course over a period of four months. The course was comprised of university and graduate students at SFC, many of whom were returnees. The average TOEFL score was 577; the top score was 663. This context allowed me to help students develop both their intellectual and communicative skills as well as to teach English itself.</p> <p>First, the classroom procedures are described: 1)Quiz, 2)Mini-lecture on communication, 3)Model speeches, 4)Students' presentations, 5)Joke of the day. Next, my teaching techniques, which are designed to facilitate enjoyable and meaningful classes, are explained. In addition, the students' evaluations of the course are presented. The results of these evaluations suggest that students view these teaching procedures as effective in improving their communicative skills. I hope this article will help other English instructors improve their teaching methodologies.</p>
Notes	調査・実践報告
Genre	Departmental Bulletin Paper
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AA12043414-20090000-0019

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the Keio Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

SFCにおけるPublic Speaking教育： 教授法と学生の授業評価

成毛 信男

Abstract

This article reports a case of a successful public speaking course over a period of four months. The course was comprised of university and graduate students at SFC, many of whom were returnees. The average TOEFL score was 577; the top score was 663. This context allowed me to help students develop both their intellectual and communicative skills as well as to teach English itself.

First, the classroom procedures are described: 1) Quiz, 2) Mini-lecture on communication, 3) Model speeches, 4) Students' presentations, 5) Joke of the day. Next, my teaching techniques, which are designed to facilitate enjoyable and meaningful classes, are explained. In addition, the students' evaluations of the course are presented. The results of these evaluations suggest that students view these teaching procedures as effective in improving their communicative skills. I hope this article will help other English instructors improve their teaching methodologies.

キーワード：Public Speaking、教授法、授業評価、コミュニケーション教育、人間教育

1. はじめに

慶應義塾大学湘南藤沢キャンパス（以下SFCとする）では、英語教育の目的に English for Critical and Creative Thinking を標榜している。筆者は、その目的達成の手段として Public Speaking の授業を位置付けている。慶應義塾大学では、創立者の福沢諭吉先生ご自身がスピーチ教育の重要性を早くから説かれ、三田キャンパスに演説館を有している。従って、慶應義塾大学は、我が国でスピーチ教育に関して最も伝統のある大学と言える。そうした中で関連講座を担当できることを光栄に感じている。筆者は、過去15年にわたりこの講座を担当している。本実践報告では、SFC における高度な英語力を持つ学生の指導における試みと工夫を提

示し、加えて受講生による授業評価を報告する。教育において、その教育効果を検証するのに実証主義的視点も大事だが、学生のうちにどのような内省が生まれ、どのような意識の変化が生まれたのかを見ることも忘れてはならない。つまり、実証主義（Positivism）だけではなく、ポスト実証主義（Post-positivism）の視点も重要なのである。この意味で本実践報告では、学生自身の意見に耳を傾けることに重点を置くことにする。

2. シラバス

Course Description

This class is designed to familiarize students with speech making. This is an intellectual skills course involving reasoning, critical thinking and listening, and articulation of thoughts, ideas and arguments. Students will learn how to be effective listeners. Also, they will learn how to evaluate speeches by actually evaluating their classmates' presentations as well as other speeches presented by video. This will be an experiential, participatory learning class, because I firmly believe we learn best by doing. No method of skill development can match the power of actually experiencing what we are learning. This class encourages students to speak from the heart, to get in touch with their feelings and share them with the class during their speeches. Also they will receive honest feedback and helpful criticism on their speeches. Those of you who want to improve your presentation skills, come and join us. I expect a good deal of active and thoughtful participation on your part.

Some of the things you will experience in this class:

- (1) Quiz (Every week)
- (2) Mini-lectures on communication.
- (3) Pair work and group work.
- (4) Speaking in public.
- (5) Joke of the Day.
- (6) Model speeches by students and professional speakers. (You will be able to watch some speeches by World Champions of Public Speaking, too)
- (7) Etc. Etc.

Learning Outcomes

The primary goals of this class are to help students to:

- (1) develop confidence in public speaking,

- (2) reason logically,
- (3) orally present their ideas and opinions in a coherent, organized fashion,
- (4) learn the basics of informative, entertaining and persuasive speaking,
- (5) learn the basics of outlining and organizing a speech,
- (6) listen critically and objectively,
- (7) appreciate a sense of humor,
- (8) learn how to evaluate a speech,
- (9) learn how to be better communicators, etc.

Grading

Attendance: 20%

Quiz: 15%

Class Participation: 10%

Reading Assignment: 15%

Speeches: 40%

Teacher's Comments

I believe that the contents of our daily communication can be the contents of our life. Good communicators can enjoy life fully. Therefore, we need to become such good communicators. Through this class let us learn from each other and let us try to be better communicators.

3. 報告対象の授業

- 1) 授業時間と回数：90分。Semester制度をとっているため、平均13回。
- 2) 使用言語：英語
- 3) 受講生：学部1年生から4年生、時に博士課程まで含む大学院生が履修。平均19名の受講生。
- 4) 対象年度：2006年秋学期から2009年春学期の3年間。
- 5) クラスのレベル：レベルC

筆者は、レベルBも担当しているが、本報告書では、レベルCのクラスについてのみ扱うことにする。何故なら、レベルCのクラスは、帰国生が多く、いわゆるAdvanced Classと考えられ、英語力が高度に進んだ学生を教える方法論とその評価の報告書は数少ないと思うからである。レベル分けはTOEFLによって行われている。レベルCは、525点以上の学生が履修

できるクラスである。過去3年の筆者が担当したクラスの成績の内訳は以下の通りである。

	平均点	最高点
2006年秋学期	555点	593点
2007年春学期	572点	657点
2007年秋学期	580点	650点
2008年春学期	593点	633点
2008年秋学期	601点	663点
2009年春学期	565点	613点

以上の6学期の平均点は、577点である。2008年秋学期の平均点が601点になっているが、このクラスの18名の受講者中600点以上の学生が9名もいたことからこの様な高得点になっている。最高点が663点であるがこれも驚異的なものである。以上のようにレベルCのクラスは英語力が非常に優れた学生が履修するクラスである。英語そのものを教える必要のないクラスとも言える。学生の多くが帰国生であったり、中には一見して日本人ではないと確認できる学生もいることなどがこの非常に高レベルのクラスを作り上げている原因と考えられる。

2009年春学期のレベルCクラスの学生の成績は、530点から613点で、その平均点は565点であった。18名の学生中600点を超えるものが2名、英検の1級合格者は4名であった。日本国内で英語教育を受けた学生は3名で、他は留学経験があったり、外国の生活が長い学生たちであった。受講生がこのように高い英語力を持った、いわば「特殊」な学生であるので、ここに授業の工夫が求められるのである。以下は、筆者なりの授業の工夫と学生による授業評価の報告である。授業評価は、学期の最終授業で10分ほどを使い意見を書いてもらった。記述は、日本語と英語で行われた。

4. 授業の内容と構成

- 1) テキストを指定し、Public Speaking に関する Reading Assignment を課す。英語でのレポートを書き、第11週目に提出してもらう。
- 2) 学期中のスピーチの発表回数は、3回である。3回とも5分位を目途としている。最初のスピーチは、自己紹介。2番目は、Informative Speech で、情報提供のスピーチをする。内容は、自分が熟知している事柄を選び、5分位のスピーチに仕上げ、クラスで発表をする。最後のスピーチは、Entertaining Speech か Persuasive Speech のどちらかとなっている。この理由は過去のクラスで Persuasive Speech だけでの試みをしたが、そうすると3回目のスピーチが十分にできない学生が出てしまった。そこで Entertaining Speech を

加えた。しかし、両者が明確に区別できないような場合も多々あるのが実状である。発表する場合、すべてを暗記する必要はなく、メモを見ながら行ってもよい。Informative, Entertaining, Persuasive スピーチそれぞれのモデル・スピーチをビデオで見せ、参考にさせる。

3) 毎回の授業の構造は以下のようなものである

- (1) クイズ
- (2) コミュニケーションに関するミニ講義
- (3) ビデオでのモデル・スピーチの提示
- (4) 学生によるスピーチの発表
- (5) Joke of the Day

(1) クイズは、授業のはじめに、出席カードを配布し、名前等の記入後、裏面を使い解答を書いてもらう。このクイズは、毎週採点をして成績評価に反映させる。授業開始時にする理由は、遅刻者を少しでも少なくしたいと考えるからである。種類は多様で、ある文章を筆者が5、6回言って、それを書き取ってもらう場合や、プリントを配布しそのメッセージを書いてもらう、さらにビデオを見て内容を要約してもらう問題などである。ここで使用する文章は、深い意味を持ったものを使用している。

例：Abraham Maslow の言葉の紹介。If the only tool you have is a hammer, you tend to treat everything as if it were a nail. 筆者がこの文章を口頭で何度か繰り返し、学生が書き取り、日本語訳も書いてもらう。すると、最後の単語 nail を「爪」と訳す学生もいる。もちろん「釘」が正しい。さらにこの文章の意味を皆で考える。「一つの手段しかない場合、その手段に即した行動しかない」ことになる。従って、諸々の手段を持つことが豊かな人生を導くことにもなる。SFC でのコンピュータや語学の学習もそうした手段になりうるから学習しているのではないか、などと話している。さらに Maslow の「欲求の5段階説」、彼が Humanistic Psychologist であったことなどを解説する。心理学の分野の発達段階に触れる。Behaviorism, Psychoanalysis, Humanistic Psychology, そして現在は Transpersonal Psychology などの分野があることを説明する。そして、Maslow は、第3の心理学 Humanistic Psychology の設立に貢献し、第4の心理学 Transpersonal Psychology の設立にも影響を及ぼしたことなどを話す。

(2) コミュニケーションに関するミニ講義は、コミュニケーション全般に関する認識を深めるような講義で、15分から20分位の時間をかけている。How to talk with a stranger, Speech Organization, Speech Delivery, Speech Evaluation, The Johari Window, Intrapersonal

Communication, Interpersonal Communication, Intercultural Communication, Nonverbal Communication, Abstraction Process, Good Communicator の特徴、コミュニケーションの関連図書の紹介、などがその内容である。この講義中もできるだけ学生に質問をし、双方向のコミュニケーションを多く持つようにしている。

(3) ビデオや DVD を使いモデル・スピーチを見る。このスピーチの種類は多様である。高校生チャンピオン、日本語スピーチのチャンピオン、大学生、筆者、全日本チャンピオン、世界チャンピオン、クリントン前大統領、オバマ大統領、Bill Gates, Steve Jobs, McCain's Concession Speech, Severn Suzuki, Leo Buscaglia, Martin Luther King, Jr. 等のスピーチである。大学生のスピーチは、筆者がビデオ撮影したものだが、二人のスピーチを提示し、スピーチの評価に使用している。受講学生に評価をしてもらい、全員が一方のスピーチを高く評価していることなどの確認を行っている。その後、どうしてそのような評価をするかの意見交換をしている。

筆者のスピーチも 5、6 種類のをビデオで提示している。筆者は、教師は自らを語らずして、真の教育はあり得ない、と考える。それゆえ学期の 1 回目の授業では、自己紹介を 1 時間位かけて行ってもいる。これは、Informative speech の例の意味も持っており、そのデモンストレーションとなっている。筆者のスピーチのビデオを提示することで、筆者もスピーチと格闘しており、学徒の一人として学び続けている姿勢を伝えている。スピーチを見てももらった後に、コメントをしてもらおう。これは、履修者すべてに聞くようにしている。内容はもちろん話の仕方、その他なんでも感じたことを皆で論じている。良い点、改善点などを話し合うことで多くを学べるものである。全日本チャンピオン、世界チャンピオンの英語スピーチは、コンテストのスピーチである。International Toastmasters Club と呼ばれる組織があり、毎年スピーチ・コンテストを開催している。日本でも全日本チャンピオンを決定し、世界チャンピオンも毎年選ばれている。世界チャンピオンの DVD は毎年販売されており、それを筆者は使っている。¹⁾ 筆者は、過去 15 年ほど Toastmasters Club のメンバーである。筆者自身もコンテストに参加しているので、そのスピーチのビデオを教材として使用している。世界チャンピオンによるスピーチ等は、3、4 種類を提示しているが、言うまでもなく優れたもので、中にはあまりにも感動して涙を流す学生が数名いたほどであった。7 分ほどのスピーチで聴衆を 17 回も笑わせ、それでいてほろっとさせてしまう場面を作ってしまう名スピーカーたちがいるのだ。アメリカの大統領選挙があった年などには、オバマ大統領のスピーチや対立候補だった McCain のスピーチ等も鑑賞している。

(4) 学生のスピーチの発表は、学期間 3 回行う。発表日は、あらかじめ決定しておく。2 回目からのスピーチについては、発表者以外で聞いている学生は、そのスピーチの評価を行う。従って、学生は聞いているときも、集中して聞き、メモを取らなければならない。はじめに、

世界的に使用されているスピーチの評価基準の資料を配布し、その説明を行っている。この評価基準は、詳細なもので、3項目に下位項目がついている。そしてその下位項目が点数化されているものである。授業では、その評価基準の3項目を取り入れ、次のよう簡単なものになっている。何故ならば、あまり詳細にわたる評価をするとスピーチの内容を十分に聞けなくなってしまうという問題が生じるからである。

Contents (内容) + English (英語) + Delivery (話し方) = Total (合計点)

各項目ごとに5点満点で採点してもらい、最高点は15点である。加えて、発表者の良い点と改善点を一つずつ指摘するように指導している。受講者が20人いる場合発表者以外の19人から意見を聞けるシステムとなっている。このシステムは好評で、発表者はこのPeer Evaluationから自分の気付かない点を多く学んでいる。これに加えて、評価する学生には、発表者のスコアだけを書き筆者に提出をしてもらう。これによりクラス全体が発表者のスピーチをどの様に評価しているかを見て、成績評価の参考になっている。この評価方法における言語面の評価は、English (英語) があり、配点は3分の1となっている。しかしながら、前述のシラバスのGradingの4項目：Quiz, Class Participation, Reading Assignment, Speechesでも言語面の評価は行われている。さらに3回目の最終スピーチはビデオに撮り自宅で見て成績評価の参考になっている。このビデオを教室で見る時間があればいいのだが、その余裕はない。

紙を使った評価に加え、スピーチ終了後必ず口頭でのインタラクションを行う。聞いている学生に、できるだけ自主的に質問やコメントをさせるのである。これはスピーチの発表を一方的なものではなく、双方向のコミュニケーションにするためである。聞き手の学生からコメントが出にくい場合は、指名して2、3名の意見を聞く。さらに、筆者のコメントは必ず行っている。その際にはできるだけ、良い点を指摘するようにしている。

(5) Joke of the Dayは、授業の最後に筆者がジョークの紹介をしている。この内容は、筆者のオリジナルなものも含めて行う。Sense of Humorは英語的発想の根幹の一つで、物事を多角的に見ようとする柔軟な視点・姿勢を意味する。これは、われわれ日本人の最も弱い点ではなかろうか。The closest distance between two people is a good laugh.などの言葉を紹介し、笑については、修学以前の子供たちは、一日300回以上笑う。われわれ成人は一日何回笑っているだろうか。何か大切なものを失ってはいまいか、などと話している。このコーナーを設けることでSense of Humorの必要性や大切さを伝えている。

例：Oscar Wilde said, "The proper basis for marriage is a mutual misunderstanding."

I quite agree to this idea. We misunderstand each other and get married. After marriage, we understand each other and divorce each other. So keep your eyes wide

open before marriage, and half-shut afterwards. In my case, I sometimes have to close both of my eyes.

Before marriage, a woman expects a man. After marriage, she suspects him. After he dies, she respects him. In my case, before marriage, my wife already suspected me. After marriage she kept suspecting me. And after I die, I am sure she will respect me.

In marriage life, there are three kinds of rings. Do you know what they are? The first, an engagement ring. The second, a wedding ring. And the third, sufferRing! That's the reason why we say, the word marriage is not a word, but a sentence.

5. 学生による授業評価

さて、以上のような内容の授業を学生はどのように評価しているかを見てみよう。紙幅の都合上、提示できた学生の意見は約45%で、意見は6項目に分けた。筆者のコメントは最小限にとどめ、学生自身の意見に事実を語ってもらう。学生の意見の後に付いている（'09春）等の記号は、2009年春学期の学生を意味する。筆者のコメントは、括弧を付けて学生の意見の後に付けることにする。

1) 【自信の獲得】

1 First of all, I want to thank our teacher and the participants of this class. I think that it was a very good choice to take this class. I really learned a lot in the class and I really loved the proverbs and maxims you have told us. Now I'm confident in my speech and I'm sure that I won't have problems in public speaking any more in the future. ('09春)

(「自信が付いた」と書いているが、この学生は高校時代から英語のスピーチ・コンテストに出ていた学生で、聞く人を引き付ける実力があった。)

2 In this class, I think I learned a lot from our teacher. Before this semester, my speech, my sentences had no pattern and color. My sentences improved a lot in this semester. ('08春)

3 When this class was started, I didn't really like making a speech in front of people, and also wasn't good at it. But after experiencing speaking in public 3 times this semester, my feeling for speech has changed. I still don't think I'm good, but I got used to it. And the big nervous feelings became lightened and I am so glad. ('08秋)

4 Through this class, I realized that joy and the hardship of making a public speech. Compared to what I was before taking this class, I am convinced that I have become more confident and better at making presentations in front of many people. The three

speeches I've done in this class surely helped me a lot in constructing self esteem and optimism. ('07秋)

(このクラスの目的の一つは、スピーチの難しさと楽しさを実際に体験することである。Self-esteem まで高められたのは素晴らしい。)

5 これから改善していくべき点は、情熱をもってスピーチをすることです。私は、1回目と2回目のスピーチで人前にたつと、顔が赤くなって声がふるえました。しかし、3回目のスピーチでは、1、2回目より伝えたい想いが強く、あまり赤くならず話すことができました。たくさんの方を教えて下さって、ありがとうございました。('06春)

6 I think I became a better person, hopefully. I think I listen to people more and I react to them better. I was really glad I took this class. My favorite part of this class was the "Joke of the Day." Thank you very much. I loved listening to jokes. ('06春)

(「人の話を聴く姿勢を持つことで、よりよい人間に成長すること」は、この授業の目的の一つでもある。このような学生を育てることは Liberal Arts Education の目的でもある。)

2) 【評価方法】

1 Through evaluating and being evaluated I think I learned more than reading a book. ('09春)

(前述のように評価は、Peer evaluation を行っている。つまり、クラスメイトのスピーチをクラスメイトが評価するのである。これは、かなり好評で「自分が見えない点の指摘などが、役に立つ」という学生が多い。この学生は本を読むよりこの評価活動を通じて多くを学んだと述べている。)

2 I enjoyed your class! I'm not good at public speaking. And I had no confidence at first. Therefore, it was difficult for me to give a speech in front of people, but I wanted to improve my public speaking skills. After the first speech I realized that I have to prepare more and I did. However, I couldn't do what I practiced in the second speech, either. The comments from you and classmates helped me to notice what I should improve. ('08春)

3 I really enjoyed this class. I learned a lot from everyone's speech. I also learned what I could improve from the feedback on my speech. Throughout this whole term, I was able to learn about public speaking and there were actually times when I used the things I learned here outside of class. Thank you for a great class! ('07秋)

4 When I made a speech, my classmates laughed and gave me a lot of encouraging words. I was so happy. ('07秋)

5 人前でプレゼンをする。そして、Feedback をもらおうという経験はなかなかないので、貴重な体験でした。発表だけでなく、準備する段階でも試行錯誤が続いたので、色々なことを考えさせてもらいました。(‘06春)

6 Feedback from other students was very helpful and I could learn a lot. (‘06春)

(クラスメイトからのフィードバックは、かなり役だっていると言える。)

3) 【新たな視点や認識の獲得】

1 I would probably have never got to know these great speeches if I didn't take this class, so I'm very glad I took the class and was able to know them. All of the speeches gave me some kind of new idea, and I was enlightened by each of them. I was especially moved by the little girl's speech.²⁾ I was very impressed by how she delivered her honest words so strongly and beautifully. (‘08秋)

2 By making three speeches in front of class, I tried to make most of the chance by sharing my personal insights or experiences with other classmates. And what I found out was that in the end, I was actually given much more from classmates and you than I could provide.

Finally, the best part of the class was that we could share so much through making speeches. Thank you very much for giving us a chance. I learned the power of everybody's insight. (‘08春)

(Giving is receiving であることへの気づきは優れたものだ。事実、与えることで得られることが多い。このように真理は、逆説的であることも授業で指摘している。)

3 From comedic speeches (by world champions) to governmental speeches (by McCain & Clinton) there were many ways to use words (and phrases and actions and expressions, etc.) that I was never aware of. (‘08秋)

(このようにスピーチ内で使われている英語表現の確認もしている。)

4 I know one lady in this class, whose English is not perfect, but her presentation was so impressive and convincing. On the other hand, I know one guy who speaks really fluent English but his speech had not power. I wondered "What is the difference?" Finally, I came up with this conclusion that the lady was totally confident about what she spoke. Therefore, in speech making, confidence is something we need. This is what I learned in this class. (‘07秋)

(事実、筆者が最も感動を覚え、涙したスピーチは、帰国生によるものではなく、日本の高校を卒業した学生によるものだった。もちろん英語は完全なものではなかったが、その内容が並

はずれて優れたもので、その普遍的メッセージは、世界チャンピオンと同レベルに達していた。そうした内容を聞き手に十分伝える能力も持ち合わせている優秀な学生だった。この4番の学生が書いているように、帰国生の中には、もちろん英語はネイティブ並みではあるが、内容がなくスピーチとしては、十分ではない場合も少なからずある。つまり、英語力が即コミュニケーション能力ではないと言える。特に、Public Speakingに必要なのは、思考力と感受性である。普段から問題意識を持ち、自分の思考力を鍛えていないと、英語力がいかに優れていても十分なスピーチにはならない。)

- 5 I also learned the importance of listening. When I stood in front of class, I sometimes noticed some people were very absorbed in writing. It made me anxious. Since then, I have been trying to listen to other people carefully. By doing so, I myself could get a lot of new ideas. ('07秋)

(評価を書いたりするので発表者を見ないという問題が生じている。評価もしてもらいたいが、発表はしっかりと聴いてもらいたい。この問題を解決するには、スピーチの発表後にコメントを書く時間を設けることだと思う。しかしその余裕がないのが現状である。授業では、良いコミュニケーターは良い聞き手でもあるので、リスニングの重要性を強調し、Active Listeningができるように指導している。)

- 6 この授業ではほぼ毎週先生がいろいろな人のQuote等を紹介してくださった。私にとってそれらはすごく新鮮な考えや当たり前だったことを気付かせたものとなった。Quoteのおかげでいろいろなものを見る目が変わった。

Public Speakingをただお互いに、聞き合っただけで評価するのではなく、世界チャンピオンや先生自身のスピーチを見る機会があって良かった。内容だけでなく、話し方や雰囲気づくりまで学ぶことができた。この授業はスピーチの仕方以外にも、いろいろな知識が得られる。ニュースや、人の考えはもちろん、自分でもそれらについて考えさせられるようなものばかりで、とても興味深いものとなっていた。('07秋)

- 7 I learned many significant aspects of speech writing and presentation in this class. For example, how to grab the audience with humor and enthusiasm, or how to create impact in our speeches by citing quotes and personal experiences. But there was something more important that I learned in this class; the speech value is determined not by the construction of the speech, but the character of the speaker. ('07秋)

(最終的に大切なのは、話し手の人格であることは、ギリシャ時代から言われていたことである。この点に気づいたことは優れた視点だと言える。)

- 8 First, to be honest, this class is the best English class in SFC so far for me. This class was a special opportunity for me to rethink what I have done, experienced in my life. I

also learned that people have different points of view. ('07春)

- 9 To say the truth, I first applied to another English class, and I wasn't interested in public speaking. But as the class went on, I started to enjoy this class, and started to get interested in public speaking. Making speeches, and listening to other students' speeches made me a chance to sit down, and think about myself. Making threes speeches made me work hard, but the work I did was worth it. I am now a big fan of public speaking, and I became interested in public speaking.

By taking this class, I have a new view of life, and learned that there are a lot of things that don't know. ('06春)

(「無知の知」に達したのは立派だと思う。)

- 10 I have learned more about myself through this class. I think that is why I like public speaking; because it gives me the opportunity to really think about "what I think about!!" I enjoyed watching the #1 public speakers. I think those videos inspired me in many ways. ('06春)

(自分の行為や経験を再考し、自分が何を考えているかの確認ができることは、この授業の特徴である。それゆえ上級者向けの授業として成立しうると言える。)

4) 【人生・教訓】

- 1 Sometimes we talked about the meaning of life, the meaning of love and other very profound topics which were very moving. I was glad that I could ponder about these topics. Thank you very much!! ('09春)

(「愛や人生の意味、その他の深淵なトピックについて語った」とある。筆者は、授業を通し「哲学」を語るようにしている。この様に英語力のある学生たちに英語そのものを教えるのはほぼ不可能である。しかし、哲学や人生の問題となれば、語学力がいかに優れていようが、人生のどのような段階にあろうが、これを思考することに無意味であることはない。従って、このような授業を展開することに意義があると考えている。)

- 2 I loved this class very much. I think this is the best class I took this semester. I leaned so much through this class. I thought that the name of this class should be "Living a life." Not only did I learn about English, how to make a speech in front of people, etc., but also the way of living.

Through listening to your speeches and many other speeches, I've learned the important things in life. How to love people, live here and now, thank people, etc. Most of all, I really love the phrase, "Yesterday is history. Tomorrow is a mystery. Today is a

gift. That's why it's called 'present.'" I would like to make this phrase my "教訓" and always put it in my mind. I was really lucky to be in this class with many warm-hearted people. Thank you so much for teaching us how to live and love others!! (09春)

("Yesterday is history. Tomorrow is a mystery. Today is a gift. That's why it's called 'present'." この言葉は、筆者がスピーチで引用したものである。How to love people, live here and now, thank people, etc と書いているが、これらは、筆者のスピーチのメッセージでもあった。)

3 I learned so many things through this class. It was more important for me to know what is important in life than to study how to make a speech. This class was once a week time for me to face my heart. (08秋)

(授業が "face my heart" の機会になっていることを光榮に思う。自分の心に向き合うことは、人生で大切な時間である。このような時間をどれだけ持てるかが人生の中身にもなる。授業では、The contents of our everyday communication can be the contents of our life と述べ、日常のコミュニケーションの質を高める方法論なども一緒に考えている。)

5 The "quotes" from you and other students were great gifts for me. It was nice to know many shining words. Thank you very much for a great class. (08春)

(「輝く言葉」と書いているが、言葉の輝きだけでなく、命や心の輝きを伝えるスピーチを志向している。)

6 この授業で有益だった事は、先生ご自身の経験や紹介して下さるスピーチのビデオを通じて、人生に大切な Quote を沢山くれたことです。中でも、"There is no way to happiness. Happiness is the way" という言葉が大好き。毎回この授業では新たな事に気付かされるので、Thank You Book の "素敵な言葉" という欄に先生がくれる素敵な言葉をメモしていました。毎回この授業ではそれが楽しみなんです。

あと、Speech video の後にもらえるプリントも大切にしています。大切な箇所だけ抜き取った後、良く弟に "これ読んだ方がイイ" と言って渡しています。思春期・受験でイロイロ考えている弟の力になればと思い、多くのステキな sentence の詰まったプリントをプレゼントしているのです。この授業を通して本当に大切なことを学んだと思います。今学期の経験を大切に今後に生かしていきたいと思います。あと先生のジョークが本当に好きでした。(07秋)

("There is no way to happiness. Happiness is the way" は仏陀の言葉のようである。筆者は、Wayne Dyer などの著作でこの言葉に出会っている。³⁾ Mahatma Gandhi の言葉に There is no way to peace. Peace is the way" があるようだが、彼は、Means and end are convertible terms in my philosophy of life. と言っている。⁴⁾ このような考えの上に、非暴力の提唱があったと言える。つまり、平和的な非暴力の手段が、平和という目的をかなえるのだ、と言ってい

るのである。また Be the change you wish to see in the world.⁵⁾ という言葉も残している。世界を変えたければ、まず自分がその変化そのものになりなさい、と言っているのである。

スピーチを視聴した後でプリントを配布し、家で読んでもらう場合もある。そうすることでスピーチのメッセージがより明確に理解されるからである。)

7 In this class, I learned not only the method of becoming a good public speaker, but also other life lessons. Each message our teacher conveyed during this class is very memorable. One of the most memorable messages for me was “If you make 3 people happy today, and each of them makes three other people happy tomorrow, we can make the whole world happy within twenty-one days.” This message actually inspired me. (’07秋)
(「今日、3人を幸せにできれば、」というこのメッセージは、筆者のスピーチのメッセージの一つであった。)

8 I believe I learned many things from this class. I was very satisfied. I was able to improve my speaking skills every week by watching and listening to the lecture. But most of all what I have attained from this class was the morals in life. The importance of having a dream, laughing and being happy were some of the things I have been taught throughout this class. These are some of the things that are easy to forget but the most important values in life. (’07秋)

(筆者のクラスで過去に、夢を持つことの重要性を語ったスピーチがあった。Don't give up on your dreams. Dreams do not go away from you. Only YOU go away from your dreams! と主張した忘れ難いスピーチの一つである。)

9 I enjoyed taking this course. What I learned the most in this class is not about public speaking, but how I look at “Life.” Listening to other people’s speeches and watching your speeches made great changes in how I look at things. I think I became more positive, more kind and more knowledgeable. (’06春)

(以上のように人生について多くを学んだと述べている学生が少なからずいた。英語力が高度に進んだ学生の教育には、この種の工夫が必要だと考える。人生を語ることで満足度が高められると言える。)

5) 【教師の評価】

- 1 他の授業と異なり、先生は、知識を与えるだけでなく、スピーチや先生のお話を通して、様々な“教訓”を私たちに伝えられていて、毎回の授業がとても刺激的でした。また先生の授業をとらせて下さい！ (’09春)
- 2 今期で一番楽しく実りあるクラスとなりました。世界のすばらしいスピーチを見て様々な

ideaを得、skillも得ました。本当に良いコースでした。先生、ありがとうございました。来年もとりたいです！（09春）

- 3 Humorの重要性を肌で感じました。先生のお話はいつもユーモアに富んでいて聞いていて楽しいし、聞き入ってしまいました。紹介される動画もユーモア満載で素晴らしいものでした。先生がJapanese Englishで、十分気持ちと内容を聴く人に届けられる、それでいいんだと言っており、それがよく理解できました。一学期間でしたが、本当にありがとうございました。来年また受講したいです。（08秋）

（以上3名の学生は再度、筆者の授業を履修したいと書いているが、現在まで約10名ほどの学生がリピーターとなっている。）

- 4 I learned how humor is important in a speech from this class and there are many important things in life. You can find happiness in your life any time. I really respect the way you think and I wish I can be like you when I'm in your age.（08秋）

- 5 I learned love from you. Your energy and effort to love students is very special. Thank you for this great class!!（08春）

- 6 単純に、先生は話がおもしろくて、上手で、ネイティブでない人がこれだけ楽しく英語をつかっているのを初めて見たので、毎週ホントに刺激的でした。（07秋）

（筆者にとって英語はあくまで「外国語」であり、限られた語学力で展開する日々の授業は、隔靴搔痒の連続でもある。）

- 7 Your class, from my point of view, was the best I could ever take. Humor, lessons, activities, work, messages, were all well balanced. This is what must be done in university classes. I would like to set my goal today to be “a superior teacher,” like you.

I usually tend not to listen to other's advice much, and just keep on going till I hit a wall. It was you that taught me to have ears, because every talk has lessons. Not only did you “teach”, but you also gave a chance to interact with each other, and gave an opportunity to use the skills we learned. You did not teach me speaking. You taught me “生き様.”（07秋）

（この学生は、将来教員になろうとしていた。私のスピーチの内容に“The mediocre teacher tells, the good teacher explains, the superior teacher demonstrates, and the great teacher inspires”というメッセージがあった。その文脈で、“a superior teacher”という表現を使用している。筆者はまだGreat teacherになっていないが、自分のスピーチをクラスで見ってもらうことでdemonstrationを行っている。自分をsuperior teacherに近づけようとしているのである。

- 8 この授業を受講して得られたことは、経験と勇気です。先生が常に生徒の話を引き出そう

と、対話を行なおうとする姿勢は見習うべきと考えます。経験は分かち合うことで自分にも定着し、他者の経験をもっと感じることができるからです。(’07春)

9 This was my favorite class. Our professor was really thoughtful and amazingly good at public speaking. (’07春)

10 半年間、ご指導ありがとうございました。先生の授業に初めて参加した時から、そのとても熱いご指導と生徒である私たちへの愛を感じました。(’06春)

11 良い点は先生が本やコトバを紹介したこと。先生のジョーク。何より、先生がステキでした！(’06春)

12 Our teacher has a lot of sense of humor. I enjoyed it. He is very kind, so I could study in a relaxed manner. Totally, I could enjoy this class so much. He taught me that English was so much fun. (’06春)

(He is very kind と書いてあるが、Kindness についての筆者自身のスピーチを見てもらっている。その中に次のような引用がある。The Dalai Lama of Tibet said, “My religion is kindness. Kindness is my religion.” Also Henry James said, “In human life, three things are important: The first is to be kind. The second is to be kind. And the third is to be kind.” This much we need kindness in this world. スピーチで言葉の遊びをするのではなく、Do what you preach の考え方、自分の主張を実践することの大切さも論じている。この学生が英語の楽しさを知ったことを嬉しく思う。)

13 Our teacher motivated and encouraged us a lot. Every word you said was very positive and I really enjoyed this class. (06春)

(教育心理学に「ピグマリオン効果」という概念があり、教師の期待の重要性を論じている。教師は生徒に期待をする encourager であるべきだと思う。)

6) 【否定的な意見・提案】

1 While listening to speeches by classmates, I sometimes felt too boring. (’08春)

2 This is a small matter but I thought you pass around attendance cards too early. Sometimes, it was before the starting time. (’07秋)

3 You told us too many jokes. That was a bit tiring. (’07秋)

4 スピーチをする回数を、もう少し多くしてもよいと思います。(’06秋)

5 The textbook was very helpful, so the deadline of our papers should be advanced.

6 This class might have been better if the students---including myself had reacted to the speeches more. (’06秋)

7 人数を減らすこと。I wanted your feedback. 点数はいらないのですが、感想等、先生の

ものが欲しかったです。(’06秋)

(今回調査の対象となった授業は、6学期にわたるものであったが、以上が否定的な意見や提案のすべてとなった。既に改善されているものもあるが、そうでないものはもちろん将来改善せねばならない。)

6. おわりに

本実践報告では、SFCにおける高度な英語力を持つ学生の指導における試みと工夫を提示し、加えて受講生による授業評価を報告した。しかしながら、紙幅の関係上、学生による数多くの評価を掲載できなかった。さらに、筆者自身によるスピーチやモデル・スピーチの内容、その他数多くの資料も伝えることができなかった。当然ながら、筆者の授業も改善を要する部分もある。これらは、別の機会に譲らねばならない。

筆者は、このクラスを Liberal Arts Education の一環として捉えている。学生を解放し、その地平線を広げる手伝いをし、彼らに真の意味で感受性豊かな、思いやりのある世界市民になって欲しいと考えているのである。特にアメリカで教育を受けた帰国生の多いこのレベルCのクラスでは、中には「アメリカが全て」で、他の文化をあまり認めないような傾向をもつ学生もいる。そのような学生に、われわれの見ている「客観世界」は主観の反映でしかなく、偏ったものであり、それがすべてではなく、世界には多様な価値観があること、そして自分の価値観と同時に他者の価値観も尊重できる人間になる必要性などを説いている。そうした努力の結果は、本実践報告にある程度は出ていると考える。レベルCのように語学的に高度に進んだクラスでは、言語自体の教育はほぼ不可能である。それでは、何が求められるのであろうか。意識の改革を含めた深いレベルの学びや洞察を得ることが目的とされねばならない。本実践報告はこうしたレベルの教育的努力の一例である。授業を魅力のあるものにする工夫として以下を指摘しておく。

- 1) 哲学的で意義ある教材を使用し、学生に思考させ、意識の改革、深い気づきへの手助けをする。
- 2) 教師自身のモデル・スピーチを見せるなどして、自らを語る。
- 3) 参加型の授業：授業中に履修者にできるだけ多くの Interaction を持たせる。
- 4) 経験学習の授業：スピーチの発表を通じてその難しさと楽しさを実際に体験してもらう。
- 5) 評価活動を導入することで、積極的に話を聞くことができるように導く。
- 6) 技術的な「話術」としての Public Speaking ではなく、人間が重要となる「話道」としての Public Speaking を位置づける。

- 7) 何よりも、人間教育の視点を忘れず、学生の成長を願い、教師が熱意を持って授業を展開すること。

この授業を通じて学生は、かなり多くを感じ考え学んでいるようで、その授業評価は、概ね好意的なものであることが判明した。本実践報告が今後の Advanced level の英語教育の発展に役立つことを願っている。同時に、国際社会の一員として、自分の考えや意思を明確に伝えるコミュニケーション能力の育成を主眼とする講座として Public Speaking 教育を位置付け、今後もより良い授業の構築をめざし、豊かな人間・地球市民の排出にさらなる努力を重ねていくつもりである。

注

- 1) この DVD は、Bill Stephen Productions, Inc., が販売するもので、Billspro.com から注文が可能である。
- 2) 12歳の少女 Severn Suzuki によるスピーチを意味している。このスピーチはリオデジャネイロの地球サミットで行われたスピーチで「伝説のスピーチ」と呼ばれている。同じ会議に出席していた、ミカエル・ゴルバチョフやアル・ゴアなどがこのスピーチを絶賛した。スピーチは、You Tube なので入手可能である。
- 3) Wayne Dyer, *There's a Spiritual Solution to Every Problem*, HarperCollins Publishers, 2001, p. 107.
- 4) 筆者は、この言葉を米国アトランタ市にある Martin Luther King Jr. の記念館で見つけている。
- 5) 同上。